

世界の若者と科学交流

海外フォーラム参加 明和高生3人が報告



シンガポールでの活動を報告する生徒たち＝東区の明和高で

明和高校（東区白壁）の生徒三人が、シンガポールで一月中旬に開催された国際科学ユースフォーラムに参加し、三十一日に校内で報告した。三人は理数系の部活動「SSH（スーパーサイエンスハイスクール）」の化学班で、

太陽電池に関する研究に取り組む二年浦野晴行さん（二セ）、相地秀さん（二セ）、伊藤春奈さん（二セ）。昨年十一月に大阪市立大で開かれた高校化学グランドコンテストで準グランプリに相当する賞を獲得し、コンテストの紹介でフォーラムに参加することになった。

フォーラムは十五日から五日間の日程で、米国や中国、インドネシアなど十九カ国から百二十人の同年代が集い、互いの研究を紹介して交流。ノーベル化学賞受賞者らの講演、大学や企業の訪問もあった。会話はすべて英語で、三人とも専門的な話を理解するのに苦

労したという。写真を見せながら現地での活動を報告した浦野さんは「著名な研究者が相手でも、盛んに質問をぶつけるたど、世界の高校生の積極性に感心した」と話した。

（古池康司）

2017年2月1日 中日新聞 朝刊 17面掲載